



**名古屋部会(第7回)**

日 時：	2016年7月2日(土) 15:00 ~ 17:05
場 所：	椋山女学園大学星が丘キャンパス(名古屋市千種区)
参加者：	中学校・高等学校・大学の先生方など11名が参加した。

**【内容要旨】**

椋山女学園大学星が丘キャンパスの教室を水野先生の手配により会場としてお借りし、第7回の名古屋部会を開催した。

\*\*\*\*\*

第7回の名古屋部会を経済分野の授業の展開や教材の紹介を目的に開催した。最初に野間敏克氏(同志社大学政策学部教授)より経済教育ネットワークの活動についてご紹介頂いた。

引き続き、水野英雄(椋山女学園大学現代マネジメント学部准教授)より「オープンノートによる商品企画-売れるモノを考えよう-」をテーマに最新のICT機器であるオープンノートを活用した授業実践の紹介を行った。オープンノートは紙のワークシートに電子ペンで手書きした内容をリアルタイムにプロジェクターや電子黒板に表示し、共有しながら学習するシステムである。受講者がパソコンやタブレットなしで手軽に利用できる機器であり、かつ紙の記録が残るといったメリットがある。オープンノートを使用して自由に商品企画の提案を行わせる授業では、最初に少子化による人口減少に伴う国内市場の縮小や経済成長が著しいアジア市場の成長等の経済的背景の説明や、現地現物の概念による企業等の見学を実施している。その上で、学生にオープンノートを使用して自由に商品企画の提案を行わせることで、学習した経済の知識を活かした取り組みとなる。特に、ミクロ経済学の理論に基づいて収入と費用を正しく考え、さらには利潤の確保をすることや、製品の差別化や経済のサービス化といった観点を重視することがビジネスプランの作成には重要であることを指摘している。今回の部会では、参加者は実際にオープンノートを使用してビジネスプランを考え、高齢者向けのサービスやスマホアプリによるサービスといった各自の提案をリアルタイムで比較しながら討論することを体験した。学生の提案するビジネスプランもサービス分野やアプリが多い。水野からはオープンノートは経済学の理論の講義でグラフを書かせることに応用できるのではとの提案があった。

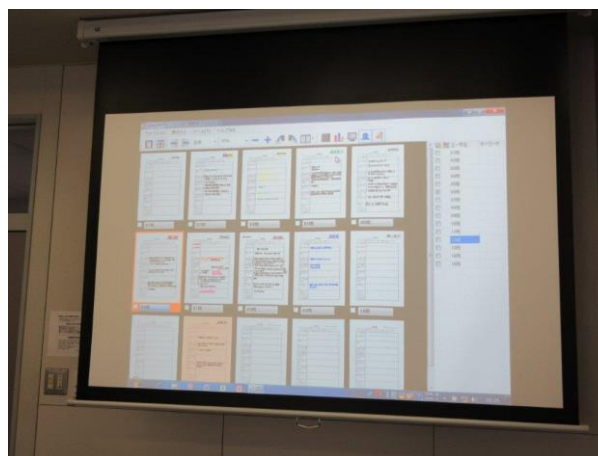
引き続き、経済分野の教育に関して自由にディスカッションを行った。①6月23日に投票が行われたイギリスのEU離脱や11月のアメリカの大統領選挙のような時事的な問題についての経済面からの扱い、②新聞の活用、③生徒に興味を持たせるテーマとしての携帯電話や電気の料金、等について活発な議論を行った。

また、野間敏克氏(同志社大学政策学部教授)より経済教育ネットワークの他の部会の教材を、西村理氏(同志社大学名誉教授)より経済教育ネットワークの活動についてご紹介頂いた。

次回については9月17日(土)に椋山女学園大学にて開催することとした。



オープンノートによる実践



スクリーンに表示されたシート



電子ペンとシート



ディスカッションの様子

撮影と文責： 水野 英雄

次回開催予定： 2016年9月17日（土）15:00 ～17:00に、場所は椋山女学園大学星が丘キャンパス（名古屋市）。議題は、教材の紹介や経済教育の進め方に関するディスカッションほか。